

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870103821
法人名	医療法人河原医院
事業所名	グループホーム里の家
所在地	松山市今在家3丁目9番29号
自己評価作成日	平成23年1月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 ※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成23年2月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

老人保健施設と併設されているため24時間医療体制が整っており、本人も家族も安心して生活できている。敷地も広くゆったりとした場所で、バーベキューを楽しんだり、花見をしたりと季節に応じた楽しみを全員で持つことが出来る。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

広々とした居間は明るく、ソファやいすが各所設置されゆったりと寛ぐことができる。医師である代表者は毎日ホームに出動しているため、いつでも受診してもらうことができ、併設の老人保健施設の看護師との連携がとれる体制になっているため、利用者は安心して生活することができる。地域で行われる夏祭りや文化祭などへのお誘いが、地域の方から頻繁にありよく出かけている。職員は利用者に優しく寄り添い、利用者のペースでケアが行われている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I.理念に基づく運営
- II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム里の家

(ユニット名) たんぼぼ

記入者(管理者)

氏名 乗松 千花

評価完了日 平成23年1月20日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 毎朝申し送り時、代表者、管理者、職員で理念の復唱をお行い、利用者1人ひとりの想いを大切にし、日々実践に向けて取り組んでいる。	
			(外部評価) 一人ひとりを思いやり、利用者の生活を大切にされたケアを理念に掲げ、各ユニットや事務室に掲示している。毎日の申し送り時に代表者と職員が共に唱和し共有に努め、常に理念に立ち返っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 夏祭り、秋祭り等地域の一員として、参加して交流させて頂いている。防災訓練など地域活動の声掛けも行っており、マップ作りも地域の方達と協力して作るなどして交流を図っている。	
			(外部評価) 自治会に入会し、地域で行われる夏祭りや文化祭などへのお誘いが頻繁にありよく出かけている。地方祭には施設の庭に獅子舞やみこしが来てくれる。小学生との交流や、併設施設に来てくれるコーラスや三味線などの慰問を一緒に楽しんでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 運営推進会議などで行事の声掛けを行い、交流行っている。交流の中で認知症の方の理解がして頂いているように思える。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 定期的に運営推進会議を行っている。利用者、家族や地域の家族の方が集まって状況報告や話し合いを行って意見等の交換もしている。防災マップ等も作成し入居者の散歩、買い物に役立つ様にしている。	会議で話し合われたことなどを容易に振り返ることができるよう会議録の様式や記載方法を再考し、ケア向上につなげて行くことができるよう取組みに期待したい。
			(外部評価) 年6回開催し、利用者や家族、市の担当者等、様々な立場の方の参加を得て、ホームや利用者の状況、防災訓練などの報告を行っている。また外部評価結果についても出席者と話し合い、よりよいサービスが提供できるように取り組んでいる。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議にも参加していただき状況を報告している。困難事例の場合は窓口まで行き相談、支援を仰いでいる。	困難な事例や居室の空き情報など市担当者との連携、話し合いは運営推進会議や電話などでも十分行われている。また、生活福祉課との情報の共有や話し合いも行われている。管理者は地域ケア会議に参加し、地域包括支援センターとの連携も図っている。
			(外部評価) 困難な事例や居室の空き情報など市担当者との連携、話し合いは運営推進会議や電話などでも十分行われている。また、生活福祉課との情報の共有や話し合いも行われている。管理者は地域ケア会議に参加し、地域包括支援センターとの連携も図っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 理解しており身体拘束をしないケアに取り組んでいるが、生命に危険が及ぶ場合においてはご家族の了承を得て、同意書ももらっている。その後も状態を見ながら拘束解除に努めている。	職員は身体拘束の対象となる具体的な事項を学習して理解している。建物の構造上、ホームのある階だけの電子ロックを常時解除することができないためロックをしているが、安全に使用できる利用者には暗証番号を教えている。
			(外部評価) 職員は身体拘束の対象となる具体的な事項を学習して理解している。建物の構造上、ホームのある階だけの電子ロックを常時解除することができないためロックをしているが、安全に使用できる利用者には暗証番号を教えている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 言葉の虐待とならない様優しい声掛けや、思いやりを忘れない様努力している。小さい傷でも見逃さないように入浴時のチェックには注意をはらっている。表皮剥離やアザが見つかった時は、原因を話し合い繰り返さない努力をしている。事故報告書、ヒヤリハットの記録によりスタッフ各自反省出来る体制を取っている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 勉強会などで学ぶ機会があったが、十分な理解は出来ていないと思う。現在制度を利用する対象者が居ないため活用には至ってはいない。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入居される際十分な説明を行えていると思います。改定時には家族会を開き十分な説明、同意を得る様になっている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 面会時、カンファレンスの時に意見、要望を出していただき、話し合いを行い月に1回ユニット回を開いて意見交換している。内容によっては、運営推進会議でも伝えている。 (外部評価) 家族の面会がよくあるため、生活の様子や健康状態を伝え要望を聴き取ることができている。遠隔地の家族には機会あるごとに、電話で情報を伝えている。毎月「ホーム便り」を発行し、ホームの様子や各人の生活状況を報告している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 月1回ユニット回を行い、いろいろな問題点や疑問点など話し合いを行っている。毎朝の申し送り時にも代表者が出席して細かいところまで意見を聞いてもらっている。 (外部評価) 代表者は毎朝の申し送りや、月に1回開催されるユニット会に出席し、職員の意見を聴き運営の質の向上につなげるよう努めている。また、管理者と職員は常にコミュニケーションを図り自由に意見や要望を出し合っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 外出や行事の際はスタッフの人数を多めにして勤務の調整を行い、状況把握して日々努力している。資格を取得すれば給与等も昇給があり、各自が向上心を持って働ける環境整備に努めている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 月1回のペースで勉強会は実施されており参加している。いろいろな研修の案内はあり、機会を与えてもらっているが、研修にはあまり参加できていない。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 同地域のグループホーム連絡会を作っており、同業者との交流もあり、施設に来てもらったりして、他のグループホームとの関わりを持ち、サービスの質を向上させる取組みをしている。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 管理者、リーダーが訪問して本人と直接会い、不安なことなどに耳を傾け話を聞き、安心して入居して頂けるよう努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 管理者、リーダーが家族の不安、困りごとを聞く機会を作り、初期の段階で信頼関係が築けるよう努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人と家族が必要とされるサービスの提案が出来る。本人の意思を尊重しその時、その人に合った対応を行っていけるよう皆で話し合い対応に努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 昔のこと等いろいろな話を聞かせてもらっています。本人のことを少しでも理解出来るよう努力し、良い関係が築けている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 職員と家族が気持ちを一つにして、共に支えて行けるよう協力体制は取れている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 面会は自由に来られている。趣味の友達や、身内の方が来られ交流出来るように努めている。家族にも声かけて協力して頂きながら、知人が気軽に遊びに来ていただけるように努めている。 (外部評価) 家族がよく訪問し、利用者と和やかに話し合っている。他のユニットの利用者や、同法人の近くのグループホームの入居者との交流も楽しんでいる。ホーム内に近くの大きな神社のお札を納めた神棚があり、お参りする利用者もいる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 入居者同士が関わり合えるようスタッフが仲に入って、コミュニケーションを取るようになっている。時折トラブルになることもあるが、孤立しない様に声かけを行い、歌を歌ったり、ゲーム、食事作りの手伝いなど、一緒に何かをする時間を考え、支え合えるな支援に努めている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 関係を大切に断ち切らない付き合いが出来ている。入院などで契約が終了した事も、病院との連携をしっかり取り本人、家族が安心して入院出来るよう支援に努めている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々の生活の中で本人の言葉や、様子を見たり、本人の希望、意向に合わせ、その人に合ったケアが出来る様に努めている。カンファレンスの時に本人、家族の希望、要望も聞いており、気にかかることはその場で相談し検討している。	
			(外部評価) 家族からは機会あるごとに、日常の生活面での意見や要望を聴き取っている。利用者とは一人ひとりとゆったりと向き合い、思いを汲み取るよう努めている。話し方の困難な利用者からは、表情から思いを感じ取るよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) フエースシート等でこれまでの暮らしを把握したり、1人ひとりがどのように暮らしてきたのか、何をされていたのか、本人や家族からも話を聞き、趣味などその人らしく暮らして行けるよう支援している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 笑顔を見たり訴えを聞いたり、見守り、声かけを行っている。特変あればナース、家族に連絡行いなるべく本人の言葉で、ケース記録に残している。1人ひとりの過ごし方を把握出来るよう努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 入居者、家族にもカンファレンスに参加して頂き希望、要望などを聞いて、問題点がないか、今後どのようにケアを行っていくか話し合ったり、プランの見直しを行い、現状に合った介護計画を作成している。	
			(外部評価) 生活日誌やケース記録などが詳細に記録されており、それを基にモニタリングを行っている。担当職員が計画案を作成し、管理者や他の職員、利用者や家族でサービス担当者会議を行い、介護計画を作成している。6か月ごとに見直しを行うが、状態変化によって柔軟に対応している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 見守り、声かけ行い、毎日日々の様子やケアプランのチェックをしたり、特変あれば個別記録に本人の言葉でそのまま記入出来ている。スタッフ間の申し送りノートがありスタッフ間の情報の共有をして実践や介護計画の見直しに活かしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) ボランティアの協力により外出支援や、余暇活動の充実を図ることが出来る柔軟な支援や、サービスの多機能化の取り組んでいる。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 民生員、ボランティアの協力のもと安全な暮らしを楽しむ事が出来るよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 医療機関は入居者、家族の希望で決めており、かかり つけ医に受診できるように支援している。月2回の往診 に来て頂いたり、家族、ヘルパーで病院受診されてい る方もおられ、自由に希望の受診が出来るよう支援し ている。 (外部評価) 利用者の多くは代表者である医師が主治医であり、月 に2回の往診がある。また医師は毎日ホームに出勤し ているためいつでも受診ができ、併設の老人保健施設 の看護師とも連携しており、24時間体制で対応でき るよう体制が整っている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 同建物内の老人保健施設に日中夜間看護師がおり。体 調の変化など何かあれば報告して指示をもらい対応 行っている。施設内に医師がいる為、適切な受診や看 護を受けられるよう支援している。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院の際はサマリーを書いて情報交換を行っている。 退院の目途がいたら医療機関と話し合いの場を持つ 等、病院関係者との関係作りを行っている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 終末期については状態に応じて利用者、家族がかかり つけ医等と話し合いを行い希望に沿った支援をチーム で行っている。 (外部評価) 看取り介護を行っており、入居前に「看取りに関する 指針」を家族に説明し同意を得ている。看取り介護に 際しては医師や職員、家族と連携を密に取り合い、話 し合いを重ねながら対応している。管理者は、経験の 少ない職員の技術や知識の向上、精神的なケアに特に 配慮している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 勉強会を行っている。消防訓練では応急手当や初期対応の訓練も行ったが、全てのスタッフが大丈夫とは言いきれない為、今後は定期的な訓練を行うように計画している。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 防災訓練は年に2回実施。消防訓練に参加し避難できる方法を、消防署、地域の方との協力を行い連携しながら、築いている緊急連絡網などもある。 (外部評価) 消防署の協力を得ながら、夜間を想定するなど、年2回の避難訓練を実施している。火災報知器、緊急警報装置、スプリンクラーを設置している。緊急時は町内会にも協力を得られる体制も構築されている。	緊急時に備えて連絡網を使用して迅速、確実に連絡ができれば、定期的に訓練を行っておくことが望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 1人ひとりの人格を尊重し、優しい声かけ、思いやりを持って接するよう努力している誇りやプライバシーを損ねないように言葉を選ぶなど、職員全体での勉強会も取り入れている。 (外部評価) 個人情報の取り扱いやプライバシーの保護に関する学習会を持ち、利用者の人格を尊重しながらケアに取り組むようしっかりとした教育がされている。また、利用者の写真を掲載する際にも了解を得ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 本人の思いや希望を聞いている。何気ない日常会話の中やカンファレンス時に本人の好物、したいこと等聞いて、希望に沿えるようにしている。おやつ時間は種類の違う飲み物から選んで頂いたり、行事への参加、入浴の実施なども自身で決定して頂いている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 食事、入浴の時間は決まっているが、起床、入浴など声かけして、しんどいとの訴えの時は中止したり、健康状態、本人の希望に沿った支援を行えるようにしている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 理容は毎月1回、美容は2ヶ月に1回訪問して頂いているので、カット、パーマ、毛染めも希望に応じている。服も本人の気に入った服を着て頂き、外出時はお化粧、マニキュアなどおしゃれを楽しんで頂けるよう支援している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 野菜の皮むき、もやしの根切り、食材を切ったりする準備をしてもらっている。1人ひとりの嗜好に合わせて、食べれない物は、それに代わる物、好きな味付けにするなど食事を楽しんで頂く支援を行っている。 (外部評価) 職員はさりげなく寄り添って介助をしたり、穏やかに声かけをして利用者がしっかり食事ができるよう支援している。職員と一緒に無理のないよう調理の下ごしらえをしている利用者もいる。利用者の好みのメニューをとり入れたり、誕生会には握りずしを用意するなど食事を楽しむことができるように工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 必要と思われる方には食事量、水分摂取量のチェックを行い、少ない方には摂取可能の物の検討をするなどして必要量の確保が出来るよう支援している。食べやすい食器の支援も出来ている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後口腔ケアを行っている。夜間は入れ歯をポリデントにつけ込み洗浄している。舌の状態、入れ歯のチェックも行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) ポータブルの設置やトイレの声かけ行い、誘導、介助を行い、オムツ交換もその人のパターンを知り、適時行っている。	
			(外部評価) 各人の排泄記録が記載されており、状態に応じてトイレにさりげなく誘導するなどの支援が行われている。夜間はおむつ使用の利用者も、昼間はトイレでの排泄の支援を行うよう心がけている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 排便確認は毎日行っているがコントロールは難しい。便秘対応にセンナ茶飲用や、腹部のマッサージ、水分の声かけなど行っている。それでも無い場合は、主治医に相談して指示をもらって看護師に対応してもらっている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 週3回午後に入浴してもらっているが、本人の体調や希望に応じて、入浴を中止するなど出来る限り個人に合わせた対応を行っている。	
			(外部評価) 基本的には2日に1回、午後に入浴支援を行っている。入浴の苦手な利用者には、タイミングを見計らって、声かけするなどの工夫に努めている。利用者の身体状況に応じてリフトなどを活用し、安全に入浴ができるように取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 日中食後、声かけ行い1人ひとり状況に応じて休んで頂いたり、フロアのソファで過ごして頂いている。夜間テレビを見られている時や寝つきの悪い時等、暖かい飲み物を飲んで頂いている。室内の照明はご本人の希望により、常夜灯の設置や、冬場は加湿器の使用など気持ちよく眠れるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 1人ひとり服用している薬は理解できている。飲み忘れ、誤薬など無いうよう支援している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 声かけにて食器を拭いて貰ったり、洗濯物たたみ、料理のお手伝いなど本人が出来ることはしてもらっている。喫煙や飲酒なども楽しみ、気分転換などの支援をしている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 天気の良い日は庭の散歩や喫茶店、買い物やお花見、動物園など行かれ、ドライブの支援をしているが、全員ではない。また機会も少ない。家族の協力で月に数回外出されている方もおられる。 (外部評価) ホームの庭に出て外気に触れたり、季節に合わせてお花見、菊花展などに出かけている。また、近くのスーパーやコンビニに出かけ、買い物を楽しんでいる。ドライブに出かける際には、家族に声をかけ一緒に出かける時もある。またボランティアの協力を得ることもある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 金銭管理はスタッフが行っている。必要な物は買い物の代行で希望される物を買ってきている。バザーなど自分で行かれた時は自身で払われたりする時もある。希望があれば近所のコンビニに買い物にスタッフと行かれることもある。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 本人が電話をかけたり、手紙、はがきを出したい時は希望に沿うよう支援している。手紙、はがきが届いた時は必要に応じて代読したり、代筆をするなど支援を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 季節感のある花を飾ったりして季節感を採り入れる環境作りを行っている。テレビの音量やボリューム調整を行い、リモコンで見たい番組に変えたり、希望を聞いて、居心地よく過ごせるよう工夫している。</p> <p>(外部評価) 広々とした居間は明るく、大きな窓からは城山や市内の景色が一望できる。室内には季節の花や利用者の作品、外出時の写真などが飾られている。各所にソファを置き、思い思いの場所でゆったりと寛ぐことができるようになっている。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) フローアにソファを置いていてテレビを観られたり、傾眠されたりして好きな場所で思い思いに過ごされている。エレクトーンを弾かれてる方もあれば、皆で唱歌、童謡を一緒に歌って過ごされることもある。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 家具類の持ち込みは自由であり、自宅から持ち込まれている方もある。家族の写真、手作り作品、御位牌、ペットの写真など自宅のなじみのものを持ってきて、飾り本人が居心地良く過ごせる工夫をしている。</p> <p>(外部評価) 居室内のダンス、ベッド、洗面台はホームの備え付けである。使い慣れた馴染みの調度品、ぬいぐるみ、カレンダー、時計などを使いやすく配置し、思い出の写真や飾りなど自分らしい部屋づくりをしている。加湿器を備えるなど健康管理に配慮している。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 施設内は広く車椅子の移動にも十分なスペースがあり、歩行訓練も行っている。風呂場、トイレには手すりもあり転倒予防の為の環境作りがしてある。居室には名札を付けたり、トイレの場所も解りやすく表示して、自立した生活が送れるよう工夫している。</p>	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870103821
法人名	医療法人 河原医院
事業所名	グループホーム里の家
所在地	松山市今在家3丁目9番29号
自己評価作成日	平成23年1月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 ※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成23年2月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

医療とのしっかりした連携で本人も家族にも安心して頂ける対応が出来ている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

広々とした居間は明るく、ソファやいすが各所設置されゆったりと寛ぐことができる。医師である代表者は毎日ホームに出動しているため、いつでも受診してもらうことができ、併設の老人保健施設の看護師との連携がとれる体制になっているため、利用者は安心して生活することができる。地域で行われる夏祭りや文化祭などへのお誘いが、地域の方から頻繁にありよく出かけている。職員は利用者に優しく寄り添い、利用者のペースでケアが行われている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I.理念に基づく運営
- II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム里の家

(ユニット名) すみれ

記入者(管理者)
氏名 松田 岳人

評価完了日 平成23年1月20日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 地域密着としての理念ではないが、毎朝申し送りの後復唱している。	
			(外部評価) 一人ひとりを思いやり、利用者の生活を大切にされたケアを理念に掲げ、各ユニットや事務室に掲示している。毎日の申し送り時に代表者と職員が共に唱和し共有に努め、常に理念に立ち返っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 運営推進会議等への参加はあるが、地域行事の時に参加する等日常的ではない。	
			(外部評価) 自治会に入会し、地域で行われる夏祭りや文化祭などへのお誘いが頻繁にありよく出かけている。地方祭には施設の庭に獅子舞やみこしが来てくれる。小学生との交流や、併設施設に来てくれるコーラスや三味線などの慰問を一緒に楽しんでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 運営推進会議の場で非常食の案内や、OTによる介護予防の勉強会を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議の度に現状の報告を行っている。その都度内容によって意見を聞かせて頂いたりしてサービス向上に活かしている。	
			(外部評価) 年6回開催し、利用者や家族、市の担当者等、様々な立場の方の参加を得て、ホームや利用者の状況、防災訓練などの報告を行っている。また外部評価結果についても出席者と話し合い、よりよいサービスが提供できるように取り組んでいる。	会議で話し合われたことなどを容易に振り返ることができるよう会議録の様式や記載方法を再考し、ケア向上につなげて行くことができるよう取組みに期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 必要に応じて相談して、指示を貰っている。	
			(外部評価) 困難な事例や居室の空き情報など市担当者との連携、話し合いは運営推進会議や電話などでも十分行われている。また、生活福祉課との情報の共有や話し合いも行われている。管理者は地域ケア会議に参加し、地域包括支援センターとの連携も図っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 建物の構造上エレベーターの施錠は行っている。	
			(外部評価) 職員は身体拘束の対象となる具体的な事項を学習して理解している。建物の構造上、ホームのある階だけの電子ロックを常時解除することができないためロックをしているが、安全に使用できる利用者には暗証番号を教えている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待なく安心した生活ができるよう支援している。勉強会も行い防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	(自己評価) 勉強会を行ったが、現状活用する対象者がいない為支援は行っていない。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入所前の契約時に家族の不安や問題点を聞き、しっかり説明して理解、納得して頂けるよう努めている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 面会のたびに対応しており。その都度管理者や、スタッフにも伝えるようにしている。カンファレンスの時にも家族の参加をお願いして要望を聞かせて頂いている。 (外部評価) 家族の面会がよくあるため、生活の様子や健康状態を伝え要望を聴き取ることができている。遠隔地の家族には機会あるごとに、電話で情報を伝えている。毎月「ホーム便り」を発行し、ホームの様子や各人の生活状況を報告している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価) 月1回のユニット回を行い意見を出し合っている。</p> <p>(外部評価) 代表者は毎朝の申し送りや、月に1回開催されるユニット会に出席し、職員の意見を聴き運営の質の向上につなげるよう努めている。また、管理者と職員は常にコミュニケーションを図り自由に意見や要望を出し合っている。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価) 資格手当のアップ、職員の増員など環境整備に努めている。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価) 施設内での定期的な勉強会の参加や、外部の研修にも出席出来る範囲で参加している。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価) グループホームの連絡協議会に参加してネットワークの構築、グループワーク等によりサービスの向上に努めている。</p>	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価) サービスに入る前に本人の困っていること、不安なことに耳を傾け、本人が安心して生活できるよう関係作りに努めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 利用前に家族からも困っていること、不安なことに耳を傾け関係づくりに努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) サービスの前に本人、家族と話を聞き今必要とするサービスが何かを、他のサービスも含めて説明している。結果入居ではなく在宅でのサービスに繋がったケースもある。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 入居者の方にも出来ることを手伝って頂き、共に生活する者としての関係を築けるよう支援している。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族の意見に耳を傾け、協力して頂きながら共に入居者を支えて行く関係づくりに努めている。毎月ユニット便りも送っている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 家族にもお願いして、馴染みの人の関係が途切れないよう声掛けして頂いたり、はがきの代読、代筆も行えている。 (外部評価) 家族がよく訪問し、利用者と和やかに話し合っている。他のユニットの利用者や、同法人の近くのグループホームの入居者との交流も楽しんでいる。ホーム内に近くの大きな神社のお札を納めた神棚があり、お参りする利用者もいる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 入居者同士のトラブルになった時は職員が仲介に入ったり、仲の良い方、悪い方と相性もあり席替えなど行うなどして、良好な関わりが出来るよう支援している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 入院によって契約が終了した場合は、必要に応じて家族と連絡を取り、相談や支援を行っている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 1人ひとりの思いや希望を聞き、スタッフ全員が把握できるようにしている。また困難な方の場合には表情や普段の対応の中から汲み取り、本人本位の対応が出来るように検討している。	
			(外部評価) 家族からは機会あるごとに、日常の生活面での意見や要望を聴き取っている。利用者とは一人ひとりとゆったりと向き合い、思いを汲み取るよう努めている。話しの困難な利用者からは、表情から思いを感じ取るよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 本人、家族から今までの生活歴などを聞きフェイスシートにまとめ、入居された後に聞く事の出来た情報はスタッフ共有できるよう把握に強めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 1人ひとりの1日の生活を記録し現状把握に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 定期的カンファレンスを行い本人、家族と話し合い現状に即した介護計画を作成している。	
			(外部評価) 生活日誌やケース記録などが詳細に記録されており、それを基にモニタリングを行っている。担当職員が計画案を作成し、管理者や他の職員、利用者や家族でサービス担当者会議を行い、介護計画を作成している。6か月ごとに見直しを行うが、状態変化によって柔軟に対応している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 個人毎に日々のケアを記録し、スタッフで情報を共有している。介護計画の見直しにも活かしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 必要に応じて本人、家族の意向に沿ったサービスが可能な限り取り組んでいる。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) ボランティアの利用、理、美容など来て頂き本人が楽しみを持った暮らしが出来るよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 本人、家族の希望受診が出来るよう支援している。 (外部評価) 利用者の多くは代表者である医師が主治医であり、月 に2回の往診がある。また医師は毎日ホームに出勤し ているためいつでも受診ができ、併設の老人保健施設 の看護師とも連携しており、24時間体制で対応でき るよう体制が整っている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 特変あればすぐに対応出来る体制が整っており、個々 の利用者が適切な受診や、看護が受けられるように支 援している。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 病院に入院した時は病院関係者との情報交換は出来 ている。退院前にはドクターから家族と一緒に話を聞 き戻られてからの対応がスムーズに出来るように支援 している。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 入所時に重度化した場合、終末期のあり方について話 しは聞いており、その必要性が出てきた時も主治医か らの説明をその都度行い、事業所で出来ることの説明 をしてそのまま希望されれば、関係者で連携をしま り取り支援助している。 (外部評価) 看取り介護を行っており、入居前に「看取りに関する 指針」を家族に説明し同意を得ている。看取り介護に 際しては医師や職員、家族と連携を密に取り合い、話 し合いを重ねながら対応している。管理者は、経験の 少ない職員の技術や知識の向上、精神的なケアに特に 配慮している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 勉強会や講習を行ってはいるが、全ての職員が実践力を身に付けているとは言えない。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 定期的に訓練を行っている。 (外部評価) 消防署の協力を得ながら、夜間を想定するなど、年2回の避難訓練を実施している。火災報知器、緊急警報装置、スプリンクラーを設置している。緊急時は町内会にも協力を得られる体制も構築されている。	緊急時に備えて連絡網を使用して迅速、確実に連絡ができれば、定期的に訓練を行っておくことが望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 1人ひとりの人格を尊重して優しい声掛け、思いやりをもった対応をしている。 (外部評価) 個人情報の取り扱いやプライバシーの保護に関する学習会を持ち、利用者の人格を尊重しながらケアに取り組むようしっかりとした教育がされている。また、利用者の写真を掲載する際にも了解を得ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 着る服、入浴など本人に確認して頂き、日常生活の中で自己決定の支援が出来るように働きかけている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 入浴、食事の時間は大体決まっているが、可能な限り一人ひとりの希望に沿った支援が出来るように努めている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 理、美容の方が定期的に来て頂いており本人の希望に沿った対応が出来るよう支援している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) もやしの根切り、食器拭きなど出来る手伝いをして頂いている。	
			(外部評価) 職員はさりげなく寄り添って介助をしたり、穏やかに声かけをして利用者がしっかり食事ができるよう支援している。職員と一緒に無理のないよう調理の下ごしらえをしている利用者もいる。利用者の好みのメニューをとり入れたり、誕生会には握りずしを用意するなど食事を楽しむことができるように工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事、水分の摂取量はチェックしており、一人ひとりの状態は把握できており、栄養バランスや必要量が摂取出来るよう支援している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 本人が出来る方は居室の洗面所で毎食後されており、出来ない方はスタッフが介助して清潔保持が出来るように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 1人ひとりの排泄パターンを掴み少しでもオムツ減らしが出来るようスタッフ間で情報を共有し支援している。	
			(外部評価) 各人の排泄記録が記載されており、状態に応じてトイレにさりげなく誘導するなどの支援が行われている。夜間はおむつ使用の利用者も、昼間はトイレでの排泄の支援を行うよう心がけている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 1人ひとり排便チェックを行い必要に応じて緩下剤の服用など、個々に応じた予防に取り組んでいる。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 入浴の時間や曜日は大体決まっており、1人ひとりの希望やタイミングに合わせることは困難である。	
			(外部評価) 基本的には2日に1回、午後に入浴支援を行っている。入浴の苦手な利用者には、タイミングを見計らって、声かけするなどの工夫に努めている。利用者の身体状況に応じてリフトなどを活用し、安全に入浴ができるように取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 夜間も入居者安眠されている。日中は年齢や体調に応じて横になる時間を作るなど支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 1人ひとりの処方箋を貼り出す等して把握に努めている。誤薬のないように渡す時には再度確認している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 余暇活動の充実を図る努力はしている。嗜好品に関しては比較的対応できている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 家族の協力のある方は外出支援も出来ているが、スタッフでの1人ひとりの希望に合った外出支援は困難である。	
			(外部評価) ホームの庭に出て外気に触れたり、季節に合わせてお花見、菊花展などに出かけている。また、近くのスーパーやコンビニに出かけ、買い物を楽しんでいる。ドライブに出かける際には、家族に声をかけ一緒に出かける時もある。またボランティアの協力を得ることもある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 自分で管理出来る方には持って頂き、困難な方にはスタッフが一緒に行って、欲しい物が蹴る買えるように支援している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 希望される時は本人が電話される様に支援している。手紙も必要な方には、代読、代筆をしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 生花、写真展示など季節感を採り入れて、居心地良く過ごせるよう工夫している。	
			(外部評価) 広々とした居間は明るく、大きな窓からは城山や市内の景色が一望できる。室内には季節の花や利用者の作品、外出時の写真などが飾られている。各所にソファを置き、思い思いの場所でゆったりと寛ぐことができるようになっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) ソファーや畳を敷くなどして入居者それぞれがくつろげる工夫をしている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 思い出のもの、使い慣れた物を持ってきて頂いており、本人が居心地良く過ごせる工夫をしている。	
			(外部評価) 居室内のダンス、ベッド、洗面台はホームの備え付けである。使い慣れた馴染みの調度品、ぬいぐるみ、カレンダー、時計などを使いやすく配置し、思い出の写真を飾るなど自分らしい部屋づくりをしている。加湿器を備えるなど健康管理に配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 危険物や障害物の無いよう安全な環境作りをしている。	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870103821
法人名	医療法人 河原医院
事業所名	グループホーム里の家
所在地	松山市今在家3丁目9番29号
自己評価作成日	平成23年1月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 ※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成23年2月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

医療との連携がしっかり取れており本人、家族が安心して生活が出来る。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

広々とした居間は明るく、ソファやいすが各所設置されゆったりと寛ぐことができる。医師である代表者は毎日ホームに出動しているため、いつでも受診してもらうことができ、併設の老人保健施設の看護師との連携がとれる体制になっているため、利用者は安心して生活することができる。地域で行われる夏祭りや文化祭などへのお誘いが、地域の方から頻りにありよく出かけている。職員は利用者に優しく寄り添い、利用者のペースでケアが行われている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい ○ 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム里の家

(ユニット名) のぎく

記入者(管理者)
氏名 丹下 実子

評価完了日 平成23年1月20日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 地域密着型サービスに基づいてはいないが、事業所独自の理念を開設当時の職員全員で意見を出し合い作成し、現在に至るまで代表者、管理者、スタッフで朝の申し送り後に復唱し、共有、実践につなげている。</p> <p>(外部評価) 一人ひとりを思いやり、利用者の生活を大切にされたケアを理念に掲げ、各ユニットや事務室に掲示している。毎日の申し送り時に代表者と職員が共に唱和し共有に努め、常に理念に立ち返っている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 地元の活動に参加させて頂き、事業所自体、また利用者と住民との交流が持っており、関わりを大切にしているが、日常的には職員が挨拶する程度で、利用者が関わり暮らせる工夫は出来ていない。</p> <p>(外部評価) 自治会に入会し、地域で行われる夏祭りや文化祭などへのお誘いが頻繁にありよく出かけている。地方祭には施設の庭に獅子舞やみこしが来てくれる。小学生との交流や、併設施設に来てくれるコーラスや三味線などの慰問と一緒に楽しんでいる。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 運営推進会議にて作業療法士や管理栄養士からの専門的な話しや、管理者からの情報、スタッフからの日常的な報告により、地域の方に向けて発信し、地域貢献が出来ている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	<p>(自己評価) 利用者やユニット内での現状報告を行い、問題に対する意見や、必要とされている情報を得て、改善に繋げ、サービス向上に活かしている。また会議で取り上げて貰いたい内容が発生した場合はリーダーに報告、相談することになっている。</p> <p>(外部評価) 年6回開催し、利用者や家族、市の担当者等、様々な立場の方の参加を得て、ホームや利用者の状況、防災訓練などの報告を行っている。また外部評価結果についても出席者と話し合い、よりよいサービスが提供できるように取り組んでいる。</p>	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	<p>(自己評価) 運営推進会議で市町村担当者より、意見や情報を得ている。協力関係は出来ている。</p> <p>(外部評価) 困難な事例や居室の空き情報など市担当者との連携、話し合いは運営推進会議や電話などでも十分行われている。また、生活福祉課との情報の共有や話し合いも行われている。管理者は地域ケア会議に参加し、地域包括支援センターとの連携も図っている。</p>	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	<p>(自己評価) 勉強会などで具体的な禁止行為を学び、ケアの実践が出来ている。玄関は開放しており身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p> <p>(外部評価) 職員は身体拘束の対象となる具体的な事項を学習して理解している。建物の構造上、ホームのある階だけの電子ロックを常時解除することができないためロックをしているが、安全に使用できる利用者には暗証番号を教えている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 勉強会や研修により虐待についての理解を深めている。日常的に身体観察をしており、また言葉での虐待もスタッフ間で注意し、見過ごさず防止が出来ている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 以前勉強会により、成年後見人制度について学んだが、現在対象者はいない。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時には事前に訪問調査を行い、話し合いまた、不安に対する説明をし、解消出来るよう理解や、納得、同意を得ている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 利用者、家族の意見は相談員やスタッフを通じ対応出来ており、運営に反映出来るよう努めている。 (外部評価) 家族の面会がよくあるため、生活の様子や健康状態を伝え要望を聴き取ることができている。遠隔地の家族には機会あるごとに、電話で情報を伝えている。毎月「ホーム便り」を発行し、ホームの様子や各人の生活状況を報告している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価) 運営に関し管理者からの説明は十分に受けているが、スタッフから運営に関する意見や提案を出すことはない。</p> <p>(外部評価) 代表者は毎朝の申し送りや、月に1回開催されるユニット会に出席し、職員の意見を聴き運営の質の向上につなげるよう努めている。また、管理者と職員は常にコミュニケーションを図り自由に意見や要望を出し合っている。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価) 各々の状況や個性を重視の上評価してくれている。把握の上労いの言葉をかけてもらうことにより、向上心を持って働く事が出来ている。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価) レベルアップに向けた研修が受けれるような機会を作ってくれている。また参加者が勉強で発表する事により、内容を共有しトレーニング出来ている。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価) グループホーム協議会や交換研修により、同業者と交流出来ている。プライバシーを守りながら情報、交換、サービスの質の向上、各自のレベルアップに向けた取り組みをしている。</p>	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価) サービスの利用開始前から相談に来られた段階で、本人の困っていること、不安なことに耳を傾け、改善に向けて話し合いをし、安心感を確保し、信頼関係が築けるよう努めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 家族の言葉を理解し不安解消や要望に応えられるよう努めている。また家族の心情を察し、誠意のある対応で信頼関係が築けるよう努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人とその家族の希望、要望をもとに今、何が大切なのか、必要なかを見極め支援している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 職員サイドの状況や意見の押し付けにならないよう共有出来る部分を見つける様心掛けている。日常の会話の中で喜怒哀楽を共にし信頼関係を築いている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 面会時には必ず声掛けし、利用者さんの日常を報告する事によって、利用者の性格を知ることが出来、アドバイスや協力を得ることによって家族と共に支援出来ている。信頼関係も築けている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 個別に支援する事は出来ていないが、家族の協力のもと知人との面会や墓参りなど実現できている。スタッフは情報を把握し、話題に出し関係性の継続をサポートしている。 (外部評価) 家族がよく訪問し、利用者とは和やかに話し合っている。他のユニットの利用者や、同法人の近くのグループホームの入居者との交流も楽しんでいる。ホーム内に近くの大きな神社のお札を納めた神棚があり、お参りする利用者もいる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 各々の思いを把握したうえで孤立せず生活していくため、レクリエーションの参加、会話の仲介など利用者同士の関係支援に努めているが、自我が強くて難しいことが多い。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退所されてからも必要に応じて相談が来て対応はしているが、現場ではなく相談員の方で対応している。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 1人ひとりの思いや希望など把握するため、コミュニケーションを取りながら理解したり、話し合いにより知ることができている。スタッフだけでは困難な場合は管理者や家族と相談しながら本人本位に検討している。	
			(外部評価) 家族からは機会あるごとに、日常の生活面での意見や要望を聴き取っている。利用者とは一人ひとりとゆったりと向き合い、思いを汲み取るよう努めている。話し手の困難な利用者からは、表情から思いを感じ取るよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) これまでの生活歴、生活環境、サービス利用等はサマリーやフェースシートにて把握しているが、更に細かい内容は、本人、家族より情報収集を行っている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 各々日々の過ごし方の違いは把握できており、またその日の心身状態に合わせて生活している。職員間の情報交換により総合的に把握できている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	<p>(自己評価) 利用者が快適に生活して頂けるよう、本人にとって何が大切なのか、1人ひとりに合った介護計画を本人、家族、管理者、スタッフ出席のもとカンファレンスを開きプランを作成している。</p> <p>(外部評価) 生活日誌やケース記録などが詳細に記録されており、それを基にモニタリングを行っている。担当職員が計画案を作成し、管理者や他の職員、利用者や家族でサービス担当者会議を行い、介護計画を作成している。6か月ごとに見直しを行うが、状態変化によって柔軟に対応している。</p>	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	<p>(自己評価) 毎日のケース記録、生活日誌に1日の様子や、ケア実践について記録に残し、連絡ノートにて職員間の情報交換をし、統一を図りつつ今後の見直しに活かしている。</p>	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	<p>(自己評価) 日によって求められる内容が違い問題も日々違う。今その人にとって何が大切なのか、何をすべきなのかを把握し、臨機応変に対応出来るよう取り組んでいる。</p>	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	<p>(自己評価) ボランティア、小学生の訪問、理容、美容の協働によりいきいきとした楽しい生活を送ることが出来ている。また定期的に消防の協力を得て、訓練を行い、安全で豊かな暮らしが出来るように心がけている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 本人、家族の希望に沿ってかかりつけ医を決定してい る。痛み等、訴えの出来る利用者に対しては良く問診 し、症状を確認、それに見合った診察が受けれるよう 支援している。日頃より状態を把握し訴えの出来ない 方にも変化に気をつけ、状況判断出来る様心掛け支 援している。 (外部評価) 利用者の多くは代表者である医師が主治医であり、月 に2回の往診がある。また医師は毎日ホームに出勤し ているためいつでも受診ができ、併設の老人保健施設 の看護師とも連携しており、24時間体制で対応でき るよう体制が整っている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 毎日のバイタル測定や声掛けにより、体調確認や日々 観察する事により、ちょっとした変化の早期発見、職 員同士で情報共有することで、迅速な対応が出来てい る。特変があればすぐに看護師に相談して指示を貰っ ている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院時には適時に看護師、管理者と共に病院関係者 との面談を行い、状況把握や早期退院に向けての相談 を行っている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 必要な時期に家族、スタッフを交えてターミナルケア について話し合い、方針を共有し支援している。 (外部評価) 看取り介護を行っており、入居前に「看取りに関する 指針」を家族に説明し同意を得ている。看取り介護に 際しては医師や職員、家族と連携を密に取り合い、話 し合いを重ねながら対応している。管理者は、経験の 少ない職員の技術や知識の向上、精神的なケアに特に 配慮している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 勉強会や講習会、またマニュアルにより知識は学んでいるが応急手当の処置の訓練は万全とは言えない。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年2回消防訓練を行っており、消防局、地域との協力体制のもと、昼、夜それぞれを想定した訓練に取り組み、迅速且つ安全に避難できるように備えている。 (外部評価) 消防署の協力を得ながら、夜間を想定するなど、年2回の避難訓練を実施している。火災報知器、緊急警報装置、スプリンクラーを設置している。緊急時は町内会にも協力を得られる体制も構築されている。	緊急時に備えて連絡網を使用して迅速、確実に連絡ができれば、定期的に訓練を行っておくことが望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 1人ひとりを良く理解し、プライドを傷付けないようにトイレ時の声掛けを周囲に知られない様配慮したり、その人らしく過ごせるようプライバシーの確保に努めている。 (外部評価) 個人情報の取り扱いやプライバシーの保護に関する学習会を持ち、利用者の人格を尊重しながらケアに取り組むようしっかりとした教育がされている。また、利用者の写真を掲載する際にも了解を得ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 飲み物や衣服、身につける装飾品など選択出来る物はして頂いている。また本人が訴えやすい雰囲気作りを心がけ、コミュニケーションを大切にケアしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 職員サイドの都合を優先してはいないが、共同生活においてやむをえず、ある程度の決まりを作って守って頂いている。その中でなるべく各々の希望に添えられるよう支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 理容、美容は本人の希望通りにカット、パーマ、カラーをしている。また起床時にはモーニングケアを行っている。外出や催し物がある場合は、本人のお気に入りの服に着替えたり、マニキュアをし、おしゃれの支援をしている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 限られた利用者ではあるが、食事作りを一緒にしたり、味見をして頂いたり、後片付けの食器を拭いて頂き、食事が楽しい物となるよう支援している。	
			(外部評価) 職員はさりげなく寄り添って介助をしたり、穏やかに声かけをして利用者がしっかり食事ができるよう支援している。職員と一緒に無理のないよう調理の下ごしらえをしている利用者もいる。利用者の好みのメニューをとり入れたり、誕生会には握りずしを用意するなど食事を楽しむことができるように工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 1人ひとりの状態に合わせて、摂取量や水分量の確保が出来るよう努めている。また必要であれば栄養士と相談し、栄養補助食品の検討も可能である。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 個人で出来る方、出来ない方、チェックが必要など状況に応じた対応をしている。義歯の人は職員介助している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 1人ひとりの排泄パターンを把握し、声掛けや誘導を行う事により、オムツ減らしが出来ている。誘導により尿意、便意の無い人でも排泄可能になることもある。	
			(外部評価) 各人の排泄記録が記載されており、状態に応じてトイレにさりげなく誘導するなどの支援が行われている。夜間はおむつ使用の利用者も、昼間はトイレでの排泄の支援を行うよう心がけている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) センナ茶や水分補給、運動を生活の中に取り入れる声掛けをし、予防、解決に努めている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 曜日や順番があり、その時々希望やタイミングに合わせる事は出来ないが、個人のペースや希望に応じた入浴時間が持てるよう努めている。	
			(外部評価) 基本的には2日に1回、午後に入浴支援を行っている。入浴の苦手な利用者には、タイミングを見計らって、声かけするなどの工夫に努めている。利用者の身体状況に応じてリフトなどを活用し、安全に入浴ができるように取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 各々の生活パターンやその時々希望に応じて、居室で休息が出来るよう対応している。また空調を心がけ安眠出来る様支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬の必要性を理解し副作用、効能、効果について把握に努めている。また情報共有する事により、状態の変化や経過の理解に努めている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 書道、ぬり絵、合唱など趣味における日常の他、縫い物や食事作り、日曜大工など日常的に活力が持てる役割を持って頂き気分転換に繋げている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) その日の希望に沿っての外出は出来ていない。ご家族の協力、同行のもと外出できている。	
			(外部評価) ホームの庭に出て外気に触れたり、季節に合わせてお花見、菊花展などに出かけている。また、近くのスーパーやコンビニに出かけ、買い物を楽しんでいる。ドライブに出かける際には、家族に声をかけ一緒に出かける時もある。またボランティアの協力を得ることもある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 病院受診や買い物時など、希望があり必要な場合はお渡ししている。自己管理出来る人は少額だが所持されている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 限られた入居者だが、家族に手紙を出す際サポートしている。また電話は希望あれば取り次ぎをしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 玄関や廊下、居間、食堂は季節感を採り入れた装飾や、写真を飾り、台所や浴室、トイレなどは生活がある空間を作っている。	
			(外部評価) 広々とした居間は明るく、大きな窓からは城山や市内の景色が一望できる。室内には季節の花や利用者の作品、外出時の写真などが飾られている。各所にソファを置き、思い思いの場所でゆったりと寛ぐことができるようになっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) ソファや植物を置き、ゆったり出来る居場所の工夫をしているが、殆ど利用はされていない。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 写真やぬいぐるみ、ダンスや、テレビなど使いやすい位置に配置したり、快適に落ち着いて過ごせるように工夫している。	
			(外部評価) 居室内のダンス、ベッド、洗面台はホームの備え付けである。使い慣れた馴染みの調度品、ぬいぐるみ、カレンダー、時計などを使いやすく配置し、思い出の写真を飾るなど自分らしい部屋づくりをしている。加湿器を備えるなど健康管理に配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) バリアフリー、手すりが建物全体にあり、残存機能を保つ為、安全且つ自立した生活を送って頂いている。	